

地域のしくみづくり検討・検証委員会 第1回会議記録

○ 日 時 平成23年5月16日(月) 15時50分～17時45分

○ 場 所 市役所5階市民サロン

○ 出席委員

委員長	日高 昭夫	副委員長	関谷 昇
委員	文入加代子	委員	平川 茂光
委員	恩田 忠治	委員	荒 久美子
委員	岩橋 秀高	委員	榎本 孝芳
委員	河野 静雄	委員	町山 賢一

欠席 2名

○ 傍聴者 2名

○ 事務局

市民担当部長	小沢 邦昭	市民担当部審議監	小菅 恒夫
地域振興課長	鈴木三津代	協働推進課長	佐藤 亮一
地域振興課	関 聡	地域振興課	山内 将

○ 議 題 (1) 委員会の検討内容について

- ・目的など検討事項の確認
- ・今後のスケジュールなど

(2) その他

- ・次回の会議日時

※配付資料

- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会第1回会議次第
- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会検討資料
- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会スケジュール(案)

○ 会議経過及び概要

1 開 会

(事務局)

地域のしくみづくり検討・検証委員会第1回会議を開始する。

委員会は、委員の過半数以上の出席により成立している。(委員会設置要綱第5条)

(委員長)

- ・さきほどの委嘱式での委員のみなさんのご発言、意見を聞いて、大変心強く感じ、松戸市に相応しい地域のしくみができる気がした。

- ・委員会設置要綱第5条により、議事を進行する。

2 会議の公開について

(委員長)

- ・事務局の説明を求める。

(事務局)

- ・本委員会の会議は、設置要綱第7条の規定により公開とする。ただし特別な理由がある場合には公開しないことを決定できる。
- ・会議の議事録は、発言者を特定しない要旨のみの書式とし、委員長の承認を経て公開するとしてはいかが。
- ・この第1回会議も公開することで広報しており、本日、2名の傍聴希望者が来ているので入場の許可を願う。

(委員長)

- ・設置要綱第7条の規定により原則公開である。但し書きで特別な理由がある場合には公開しないこともできるとあるが、会議について公開でよろしいか。(委員了承)
- ・議事録について、事務局の説明どおりでよろしいか。(委員了承)
- ・傍聴2名の入場を承認してよろしいか。(委員了承) 入場を許可する。

3 議 題

- ・3議題 (1) 委員会の検討内容について、事務局からの資料について説明を求める。

(事務局)

- ・地域のしくみづくり検討・検証委員会の検討資料に基づき説明する。(以下、説明資料の項目)
 - I 委員会の目的・目標
 - II 地域のしくみづくりを推進する背景
 - (1) 後期基本計画 (今後10年間の市政運営の基本となるもの)
 - (2) 第4次実施計画 (今後3年間の具体的取り組み)
 - (3) 本郷谷市長のマニフェスト
 - III 地域のしくみとは
 - (1) 地域自治区と地域協議会
 - (2) 先進事例
 - IV 松戸市の現状と課題
 - (1) 市の施策
 - (2) 市民活動
 - (3) 地域活動
 - V 検討の手順 (事務局の提案)
 - (1) 仕組みづくりの留意事項
 - (2) 仕組みの基本的考え方 (仮置き) を決めて検討
 - (3) 地域の仕組みの基本的考え方

(委員長)

- ・事務局から委員会の役割や何のために検討するのか、いろいろな角度から説明があった。
- ・委員さんから多くの意見をいただき、内容を固めていきたい。
- ・設置目的やスケジュールの案についての質問、意見はあるか。
- ・委員会名に検証とあるが、どのような意味があるのか。

(事務局)

- ・地域の意見をていねいに聞いて一度提示したものを検証して最終答申にまとめあげる、委員会としての案を地域とやり取りをしながら作っていくという意味である。当初、モデル実施の考えもあった。

(委員長)

- ・委員会としての案を地域とやり取りをしながら作り上げていき、スケジュール案では8月中に一度、地域に提案をして意見をいただくプロセスが必要であるということですので暫定的にたたき台を作成したい。

(委員)

- ・地域の意見とは、どのように聞くのか。組織を構築しないと意見があがってこないと思う。

(事務局)

- ・事務局では、まず地区をどう設定するのか、地区が設定できたら、協議会の準備会のような検討会議を立ち上げてはどうかと考えている。その地区での実態にあった意見をその会議でいただけたらと思う。

(委員)

- ・市政協力委員連合会の12地区を基本に進めたほうが、新たに区割りするよりもスムーズにことが進むと思う。

(事務局)

- ・松戸市総合計画では、市内11地区としているが、地域コミュニティの単位として相応しいかは、委員会でご議論いただきたい。

(委員)

- ・地域コミュニティの単位は、他市では学区単位としているところが多いが、松戸市の実情は違うので地区の単位として学区は難しいと思う。ある程度のコミュニティを中学校中心に行っている地区もなくもないが。教育、福祉の地区割が混在している現状がある。
- ・各委員の立場や専門的部分がある中でもっと松戸市の現状、先進市事例を理解しないと松戸市のしくみについての深い議論ができない。第2回会議までにそのあたりのレクチャーを受けたいが事務局いかが。

(事務局)

- ・委員ご指摘のとおりであります。限られた時間の中での議論の論点に合わせた先進事例や松戸市の現状を説明させていただいた。委員会でさらに議論を深めるために必要とする資料については、今後も情報提供していきたい。まずは、委員会としての方向性を決めていただけたらと思う。

(委員)

- ・9月のフォーラムでは中間答申を基に市民から意見をもらうが、その前段階で市民意見をこの委員会で認識する必要があると思う。自分が所属している団体の問題点などは把握できるが、他団体で実際に活動している市民の意見をどう吸い上げるのか。
- ・第4回目の会議で中間答申をまとめるには、別枠で分科会などを作り関心あるテーマについて議論し、それらを持ち集めて進めないと形式的なものになりかねない。
- ・地区、地域の活性化の単位は。

(事務局)

- ・この委員会での制度設計は、松戸市全体についてである。
- ・地域に対してしきみを押し付けるやり方では、地域に根付かないと思う。市がしきみをはっきり作り、地域に組織を作ってもらい進め方なのか、ベースをつくり地域ごとにカスタマイズできるしきみにしておくのか、議論していただきたい。
- ・市民の意見はフォーラムでいただき、第5回、第6回の会議で修正をかける流れでいかが。
- ・中間答申内容は、フォーラムや地区での意見を引き出せるレベルのものであればよいと考える。
- ・中間答申までは、広く市民からの意見を参考にするのではなく、委員の今までの多くの経験からまとめていけばよいと思う。
- ・平成24年度から条例で定めるものではない形、要綱制定で試行したい。

(委員)

- ・市民フォーラムの後に地区検討会議を開催するとした場合の地区を予め決めておくべきではないか。

(事務局)

- ・地区について、事務を執る拠点がないと進まないのでは市長は支所単位を想定している。

(委員)

- ・われわれの団体に対して何を期待し、役割はなにか。

(事務局)

- ・選出する際には、何々会長として選んだが、この委員会での発言や議論は、団体会長などの経験を持った個人として議論していただきたい。団体に持ち帰って意思決定したうえで発言いただくものではない。

(委員)

- ・将来的に組織化されたときには、情報管理的な危機管理体制も必要だと思う。
- ・団体により情報の特性があり、情報をむやみに共有するわけもいかないこともある。それらの情報管理は協議会任せではいけない部分もあるのではないかと。一方で個人情報保護が過度に厳格で、地域内での活動が停滞するなどの問題もある。それらを意識しながらこの会議を進めることも必要であるのではないかと。
- ・仮置きをして議論を進めるというが、今の事務局説明では、仮置きすらできない。例えば区割りにしてもこの時間で決められるものなのか、フォーラムまでの日程も納得がいかない。
- ・事例説明があった先進市事例は、実際に先進なののでしょうか。実は中身がうまく進んでいないなどあるのではないかと。その課題点なども紹介いただければ、ここで話し合うべきことが見えてくるのではないかと。
- ・松戸市では、多くの市民活動があるが暮らしている市民は、市民活動による暮らしやすさの実感が薄いと思う。その点を委員のみなさんがどう感じているのか聞いてみたい。
- ・第2回会議までに委員は何をしておけばよいのかを決めてほしい。
- ・市の計画にある11地区をベースにするというので、課題を抽出してから分けたり、合わせたりすればよいと思う。社協の地区割りや支所の地区割りなどの資料を用意してほしい。

(事務局)

- ・区割りについては、市の総合計画にある11地区を基本に考えていただきたい。
- ・先進事例と言いましたが、先行事例として理解願いたい。先進市が創意工夫をし、先行しているの少なくとも松戸市より先に始めているのは事実なので参考にはなると思う。検討に係る時間短縮にはつながるのではないかと。
- ・第2回目以降の進め方は、委員長、副委員長と事務局で協議させてもらいたい。
- ・第2回目会議までに、委員が感じている問題、課題のシートの提出を求めるかもしれない。

(委員)

- ・学区をコミュニティの単位とする動きはこの10年くらいで加速している。背景としては、地縁団体の蓄積された実績があげられる。
- ・それぞれの単位ではよいが、分野が異なるとか、同じ課題を共有している団体であっても組織が違ったりとか、連携ができていないケースもある。
- ・いきなり区割りとか先進市事例とかからではなく、現状、多くの経験を持つ委員が見る実情からの問題点や課題を出し合って現状をまず、把握、共通理解するところから始めたほうが入りやすいのではないかと。また、松戸市に相応しいものにするには、現状をしっかりと把握すれば、何が必要なのかが見えてくるはずである。
- ・市民の意見を反映させたくみを実際に動くようになれば、市民のモチベーションが上がっていく。どのようなかたちで反映させるのか、市民の意見を取り組む度合いによりしくみも変わるのではないかと。
- ・市民のモチベーションを高めるためのしくみを考えるときに予算を提案する権限や権利を明確に認める方法などの先進市事例が必要になるはずである。そこまで広がっていくことにより自治の活性化にもつながると思う。

- どのように進めていくのかで現状についてのおおくりだし方もいろいろな工夫のしかたもあると思う。自主勉強会など開くことは大賛成、先行事例もレクチャーの機会があれば共有していければと思う。
- 中間答申はたたき台を作るイメージだと思う。それらを地域になげかけて、意見をどう拾い上げていくのかをこの場で議論していけばよいのでは。たとえば、中間報告を携えて地域に入り、各方面、各団体の意見を聞くことや地域フォーラムという形で不特定多数の方に集まっていたら意見聞くなど工夫の仕方はいろいろある。
- 交通整理をしっかりと、進め方によりこのスケジュールに合わせられるのでは。

(委員長)

- 松戸市では、さまざまな市民活動がいろいろな分野で行われているが、市民はかたちとして見えていない、あるいは生活実感としてなかなか感じられていないのでは。という委員の意見が印象的であった。
- 市民活動の支援制度、行政と団体が協働していくための枠組みはかなり出来上がっている。
- 町会をはじめとして活動している団体それぞれが線としてつながっている。上手につなげようとしたのが協働推進計画みたいなものだと思う。それらが一つの面としてコミュニティの中で形になって現れるような仕組み、これが課題なのだと思う。そのような意味でも面的なつながりを作っていくためのしくみづくりというのは今回の地域のしくみづくりのおそらく最大の課題である。
- 町会などいろいろな活動されている団体もそれぞれの分野だけでなかなか完結しづらい課題がたくさんある。その人たちがやりきれないような課題とかをどこに持っているのだろうか、そのような場が必要だと思って活動しているかたもたくさんいると思う。そのステージをどういう形で作りましょうか、これが今回の提案だと思う。
- 具体的なしくみの設計の細部を考えていくときにおそらくいろいろな意見がまた出てくると思うが、一応、大雑把なデッサンをしておいて、今のしくみだと解決できない問題も解決できますと書いて、共有の問題であり、行政との関係の問題であり、あるいはさらなるつながりによってより地域を活性化していくための課題であり、機能はいくつかあるが充足してない、そこをうまく制度としてつなげていくことによって地域づくりのステップアップにつながっていけるような、提案をしていきたい。時間もスケジュールの制約の中でいろいろできる限りの工夫や勉強会も含めて、充実したものにしていきたいと思う。

(事務局)

- 次回の日程調整を行う。
- | | | | | |
|-------|----------|--------|----|-------|
| 第2回会議 | 6月20日(月) | 15:00~ | 場所 | 市民サロン |
| 第3回会議 | 7月19日(火) | 10:00~ | 場所 | 市民サロン |
| 第4回会議 | 8月26日(金) | 15:00~ | 場所 | 市民サロン |

4 閉 会